

(前ページから続く)

特徴と課題を①日帰り観光が主流で宿泊が少ないこと
②「大人」「夜」の開発が重要③外国人観光客を増やすことなどを挙げ、新たな観光振興が必要だとし

1、「都心臨海部再生マスタープラン」の推進と実現
・「R(カジノを含む統合型リゾート施設)」の誘致や「横浜ドーム」の構想も有力な手法 2、広域連携(鎌倉、箱根、小田原、富士山等)が重要 3、環境未来都市やスマートシティ等のビジネス観光の資源化 4、都心臨海部全体を結びつけるLRT等の新交通システムの導入などを提起しました。更に、新市庁舎整備に伴う関内・関外の活性化や山下ふ頭開発基本計画についての提言をされました。

続いて、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルの副総支配人の谷口高広氏は、「ホテルから見た、観光客の回遊性」と題して、ホテルを訪れる観光客が何を目的にどのような手段で移動しているのか、あるいはどのような希望を持っているのかをデータを示しながら今後、どのような施設や交通手段が有効なのかを説明されました。そしてそれを巡る回遊性の高い環状型のLRTは新たな観光資源になり得るのではないかと明言されました。

続いて、京都市都市計画局歩くまち京都推進室担当部長である山口雅直氏は、「『歩くまち・京都』の推進」及び「四条通歩道拡幅事業について」と題して、特に昨年10月に工事が完了した四条通歩道拡幅事業について詳しく報告されました。四条通りは京都の中心街路で、1.1キロにわたり片側2車線あった車道を1車線に減らし、歩道スペースが大幅に拡大されました。工事中は渋滞が発生し苦情が殺到しましたが、完成すると広い歩道で快適に歩けるため、評判が良くさらに賑わいが増したそうです。ヨーロッパなどの国際

観光都市では当然のことですが日本では初めてと云っている京都の試みは評価出来るのではないのでしょうか。

宇都宮市荒川副市長の特別講演

最後に、宇都宮市の副市長である荒川辰雄氏は、「宇都宮市におけるLRT導入計画」と題して、10項目の視点で1、ネットワーク型コンパクトシティの概要 2、LRT沿線の現状と東西基幹公共交通実現に向けた基本方針 3、3段階による需要予測 4、需要予測に基づく採算性の見通し 5、設計段階における新たな課題 6、3段階による交通影響評価 7、初期投資費用と償還の見通し 8、運営方法について 9、今後のスケジュール 10、中核市における新たな中量輸送システムを目指して、を歯切れよく明快に説明され大変印象に残りました。

宇都宮市は、紆余曲折あったLRT導入計画が漸く決まり、2019年の開業を目指して今年は工事が始まることと、特に3の3段階による需要予測と4の需要予測に基づく採算性の見通しでは、多面的で綿密な調査に基づいたデータを示して大変説得力がありました。又、7の初期投資費用と償還の見通しと8の運営方法についても、詳細で具体的な説明がなされました。

宇都宮市と横浜市ではその規模も仕組みも違いがあり、一概に言えませんが計画の進め方については、大いに参考になるのではないかと思います。又、何よりプロジェクトを進めるエネルギーが市民にも職員にも必要だと感じました。フォーラム終了後、講師を交えての野毛の居酒屋での懇親会では、交通まちづくりやLRTの談義が盛り上がりました。

追記:新たな交通システムの導入を検討していた横浜市は、2020年までに接続バスを活用した高度化バスシステムの導入を決めました。詳しくは4面をご覧ください。

(報告:清水康二)

●横浜の公共交通活性化をめざす会・定期総会開催

1月30日(土)、冬の公共交通フォーラムに先立ち、フォーラムと同じ会場にて「横浜の公共交通活性化をめざす会」の第9回定期総会が開かれました。総会では、まず始めに第8期(平成27年1月1日~平成27年12月31日)の活動報告と会計・監査報告があり、いずれも原案通り可決されました。昨年度の主な活動として、“交通まちづくり”に関する情報収集と知識の共有化を図るため、「横浜にLRTを走らせる会」と協働し、シームレスな公共交通の実現をテーマとした「公共交通フォーラム」、また夏には「LRTフォーラム」を開催しました。

また小田部事務局長が部会長を務める横浜市の「モビリティマネジメント推進部会(MM推進部会)」を通じた活動として、市内バス事業者へのアンケート(案内表示の整備など利用環境改善に向けた取組み状況)の実施や、県バス協会ホームページに関する改善提案

の取りまとめを行ったことなどが報告されました。

今年は役員改選期のため、運営委員7名と監事1名が選任され、代表として清水康二氏(再任)が引き続き就くことになりました。次に平成28年度の活動方針と計画および運営予算について審議し、こちらも原案通り可決され、今年度の活動がスタートしました。

今年度も引き続き、LRTを始めとした新しい交通システムを横浜に実現させると共に、既存の公共交通がより便利で親しみやすい乗り物になることを目指すための活動を基本とし、年2回のフォーラムや研究会・視察会を適時計画することにしています。またMM推進部会を通じた活動として、市交通局との意見交換会の開催やモビリティウィーク関連のイベント実施の提案、更には市が予定している都市交通計画の見直しに対し、市民の意見が的確に反映されるよう、利用者の立場から積極的に関わっていくこととしました。(報告:小田部明人)

●“横浜にLRT”フェア 開催!

横浜にLRTを走らせる会は、昨年12月13日(日)、横浜駅西口のかながわ県民センター1階展示場で「世界の流れはLRT~“横浜にLRTフェア”~」を開催しました。数年来、フォーラムのような形で市民に向けたアピールを続けて来ましたが、今回はより幅広い層に伝えるために通り返りの人も立ち寄れるようなイベント形式で行いました。会場ではLRTの役割や特長を説明したパネル、世界のLRT・日本の路面電車・横浜の市電の写真や、LRTが実現した時のイメージを広げる横浜の景色と世界のLRT車両の合成写真を展示。

続いて当会の路線案を提示し、これらを踏まえて各自が膨らませたイメージを横浜の臨海部や市全域の白地図に描き込んでもらうワークショップへと繋げる流れにしました。その他、ドイツや横浜のLRTジオラマ模型や、LRTの運転シミュレーター、世界のLRT映像を解説するプレゼンタイムなど、様々な趣向で来場者の理解を促しました。年末の慌ただしい中、あいにくの空模様にもかかわらず百数十名の方にご来場頂き、今後の展開への手応えをつかむことが出来ました。(報告:廣瀬哲哉)



●横浜カーフリーデー&モビリティウィークに参加しました!

昨年と同様、LRTの写真展と路線案募集で2015横浜カーフリーデーに参加しました。イベントは年々盛大になっています。開会式には鈴木伸哉横浜副市長はじめ、副知事、横浜市議そして相互乗入れによりみなとみらい線とつながった飯能市の市長の挨拶もありました。カーフリーデーは交通の社会実験の日です。しかし開会式での挨拶の多くが、環境イベントの日と捉えていて「今日1日、車に乗るのをやめましょう」というもので残念に思いました。

その中で鈴木副市長だけは横浜市の交通政策について話しをして、都市臨海部の回遊性のためにLRTについても言及されていました。環境だけではなく交通についても考える場として、来年度のモビリティウィーク期間中に交通についてのシンポジウムを開催したいと横浜市モビリティマネジメント推進部会に提案しているところです。

当会のブースは日本大通りで、カーフリーデーが

●法政二高へ出前講座をしました!

1月21日、川崎市中原区の法政大学第二高等学校(法政二高)に清水副理事長と小田部理事が赴き出前講座を行いました。毎年この時期、大学の理系学部に進学予定の3年生を対象に行っているもので、今回も35名が参加しました。

清水副理事長からは会の活動紹介、小田部理事からは「人と環境にやさしい交通を考える~公共交通と自転車を活用したまちづくり」と題した講義を計1時間半実施しました。講義では、超高齢社会を迎え、また環境問題を考える中で、人にも環境にもやさしい公共交通のあり方や自動車の適切な使い方について話題とし、また公共交通の中でも、高齢者の移動に適したLRTの役割が今後増すことなど海外の事例を交えて紹介しました。講義後の質疑応答では、LRTの道路利用に対する妥当性についてなど核心を衝いた質問がありました。

また後日、学内でプレゼンテーション大会が開かれ、機械工学科と都市環境デザイン科に進学予定の2チームが、LRTを活用したまちづくりに関する研究発表を行いました。この発表を傍聴させていただきましたが、他の交通手段とのベストミックスや安心安全のまちづくりなど前向きで的確な報告がなされていました。(報告:小田部明人)



どういうイベントなのかも知らない地域の人なども通りがかりにLRTの写真を見ていました。多くの方が横浜市のLRT導入検討を知っていて、導入賛成という人がほとんどでした。来年度もまた参加したいと思っています。(報告:松川由実)

